石峰＆抱月のふるさと『地域まるごと博物館』

波佐ネット通信

Ｎｏ．67　　2016.12.10

地域研究センター協議会
【参加団体】
西中国山地民具を守る会
波　佐　文　化　協　会
能　海　寛　研　究　会
ほたる湯館Ｇ・ゴルフ場

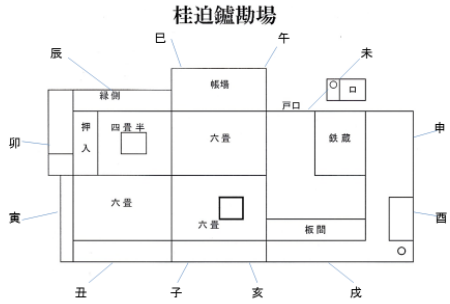
桂迫鈩の吹小屋は丸打型

波佐の中央部に位置する桂迫鈩所は、波佐川の左岸西ビラの小高い丘陵地に鈩跡が現存している。この丘陵地は、南北 80m、東西 50m の範囲に吹小屋、小鉄請小屋、銑池、大鍛冶屋が配置され、一段高い位置に勘場が配置されていた。周辺には数か所の下小屋が立てられていた宅地跡が残っている。鉄糞や炉壁の廃材は、北側へ集中して大量に廃棄されている。

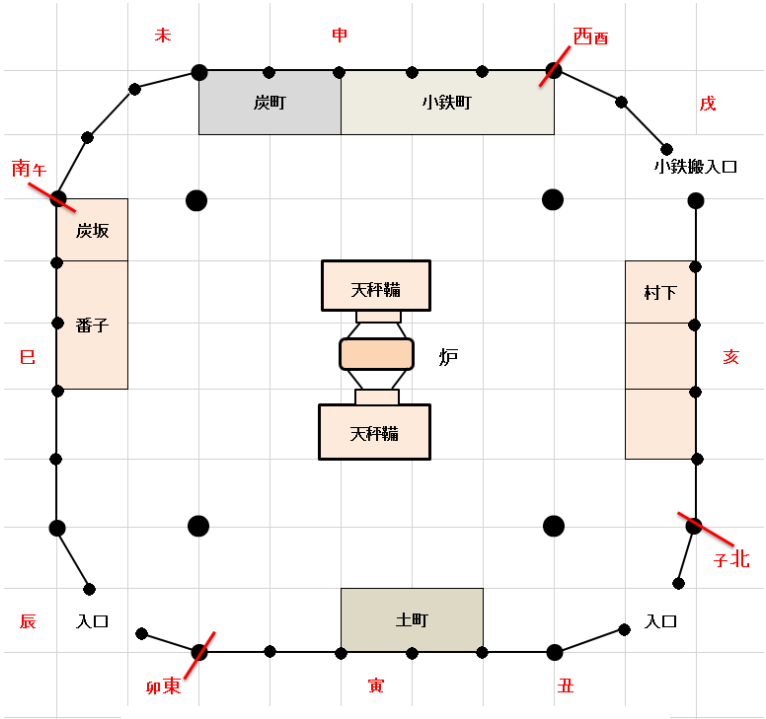
桂迫鈩関係文書の整理中に珍しいたたら文書を発見した。天保 12 年、桂迫鈩の勘場と吹小屋の打入に先だって風水による縄張り図面が発見された。そして、吹小屋の建築資材の内訳を書いた文書、鈩天秤の代金を記した文書が相次いで見つかり、吹小屋は、丸打型形式と判明した。下記の図面は、これらの文書を元に再現したものである。

この桂迫鈩に関する古文書は、創生期から終末期までの全ての大福帳や取引関係の書簡など 2,000 点が揃っている。砂鉄の流通では、高津、佐田川、七居の川砂鉄 1,500 駄。井野、横山、古和、都川、小松木の真砂砂鉄。神主、敬川、折居の浜砂鉄の購入。銑鉄の流通では、山形の酒田、福岡の博多、熊本の高瀬、山口の三田尻、大阪の堺など全国への流通先を記している売仕切証など。

今後、石見地域の鉄山研究に一石を投ずる資料群であり、桂迫鈩は学術調査が必要な遺跡である。



桂迫鈩所の全景。写真中央の帯の部分



桂迫鈩所の風水の見立てによる縄張り図

【吹小屋】丸打型式

【風水導入】風水の見立てによる天秤座の決定。

【用材】本柱４本、外柱 32 本、桁４本、中桁２本、登り桁 16 本、外桁 16 本、貫 34 間、合掌８本。

【鈩天秤代】銀札 200 目（天保 12 年）

【小舟】天秤座から南南東線上に小舟（トンネル）を設置。